令和３年５月14日

九州電気専門学校
校長　渡辺征夫　殿

学校関係者評価委員会
委員長　山本久信

学校関係者評価委員会報告

令和２年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
① 山本久信（福岡ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校　広報部長）
② 池田良司（九州電力送配電㈱送変電本部　工務部長）
③ 恒松孝二（㈱九電工　人事労務部長）
④ 八尋　茂（福岡電材㈱　代表取締役）

２　学校関係者評価委員会の開催
・令和３年４月７日（会場　九州電気専門学校　301 教室）

３　学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以　上

別　紙

学校関係者評価結果

学校関係者評価委員会において、令和２年度自己評価報告書に関し、全ての項目において確認を行った。

評価委員会の主な意見は以下のとおりである。

（１）教育理念・目標

・教育への考え方や新型コロナウイルス対策、国家資格試験スケジュールなどを記載した「KEC 通信」を作成し保護者へ発信し、概ね好評であったため、今後も内容充実しながら継続していく。

（２）学校運営

・特になし。

（３）教育活動

・教員の指導力向上に関しては、高校の教諭向けの研修が毎年行われており参考にしてはどうか

・職業実践専門課程の連携企業については、カリキュラム内容を提示してもらえれば同窓会の関係企業で対応できるものもあるかもしれない。

（４）学習成果

・卒業後のキャリア形成の効果把握のためにも、校友会代表との交流を年１回ではなく、複数回実施するなど同窓会との連携強化を図っていきたい。

（５）学生支援

・就職後の定着率の実態を把握することで必要な教育が見えてくるのではないか。

・学生のアンケートでは、定時制への支援不足が指摘されているが、就業時間帯を変更するなど柔軟な対応を検討してはどうか。

（６）教育環境

・環境整備と教育面から学校施設のメンテナンスを授業の一環として実施してはどうか舞鶴会には工事会社の経営者も多いのである程度の支援は可能である。

（７）学生の受入募集

・広報活動において、まず学校を知ってもらうために、リクルート等進学サイトで本校を知ってもらい本学のホームページの閲覧につなげている。また、WEB や LINE（SNS ツール）を使いバナー広告や追いかけ広告も出している。

（８）財務

・特になし。

（９）法令等の遵守

・自己評価の仕組みはできたので、今後更なる内容の充実を図っていく。

（１０）社会貢献・地域貢献

・電験三種の公開講座については他の企業でも大人数で開催している。当校においては外部からの参加は多くはないが、人数が少ないことで講師との距離が近いなど少人数講座のメリットを伝えることも大事であると考えている。

・小学生・中学生・高校生がもっと電気に興味を持てるようなきっかけがあるとよい

（１１）国際交流

・特になし

＜委員長総括＞

・アンケートでの指摘については確実に改善していく努力をお願いする。

・様々な状況・環境の学生に対して個々に対応していく柔軟性が必要であり、最終的にはそれが国家資格の取得に繋がるものと思う。

・改善には費用がかかることもあるが、一つ一つできる事から進めていけば良い。

以　　上

学校関係評価表（令和２年度学校関係者評価委員会）

評　価　項　目	適切･･･4、　ほぼ適切･･･3 やや不適切･･･2、不適切･･･1	平　均　点
(1)教育理念・目標	4　3　2　1	4.0
(2)学校運営	4　3　2　1	3.8
(3)教育活動	4　3　2　1	3.8
(4)学修効果	4　3　2　1	3.8
(5)学生支援	4　3　2　1	3.0
(6)教育環境	4　3　2　1	3.3
(7)学生の受入れ募集	4　3　2　1	3.8
(8)財務	4　3　2　1	3.8
(9)法令等遵守	4　3　2　1	4.0
(10)社会貢献・地域貢献	4　3　2　1	3.3
(11)国際交流	4　3　2　1	3.0
総　　合	4　3　2　1	・(1)～(11)の平均 3.6 ・総合の平均　3.8

（全体に対するコメント）

○全体的には良好であるが、今後の課題としては、
・学生の多様性（普通科、工業科、社会人等）に応じたクラス編成や授業形態の検討。
・企業と連携した授業、外部講師の積極的な採用及び資格取得率の更なる向上。
・授業評価結果のフィードバック、フォロー体制の充実や教員研修体制の構築。
・夜間学生への細かな指導体制の構築等が必要と思われる。
・学生募集が学校存続の大きな鍵であり、広報活動の更なる工夫と電気を学ぶ人材の裾野拡大も必要。

○全般的には大きな課題はなく、教育内容も充実している。
・課題認識については、確実に取組み成果を出して欲しい。
・在校生や保護者へのアンケートにより声を拾い上げていることは評価できる。継続的な改善を期待。

○学生募集体制は、時代に即したシステムで取組んでいる。
・応募にあたっては、先生や保護者のアドバイスが重要な部分を占めており、より積極的な対応が必要。
・国際交流は、少子化、電気技術者不足対応なのか社会貢献的位置づけなのか方向性の明確化が必要。

○教育理念、目標は適切であり、評価はその理念に沿って考えるべきものと思う。
・理念に基づいて運営・活動しているが、結果として入学者減少という問題が発生しており、これについては、社会環境、学生・保護者・企業のニーズをつかみ、柔軟に対応していくことが重要。
・ニーズ把握のためには、学校、卒業生受入企業及び関連企業、同窓会が一体となった情報交換が必要不可欠であり、それに基づいた変化や対応が求められる。
・その積み重ねが、社会から必要と認められる人材作り及び入学者の増加につながるものと思う。